

動物目線の活動で恩返しを

犬猫に関心のある人たち同士の交流や、犬猫の福祉と犬猫への理解を深めることを目的としたまちサポ登録団体「もふもふの会」。会を設立した渡邊さんに話を聞きました。



もふもふの会
わたなべ えり
渡邊恵里さん(本土山)

誰かがしてくれるのを待たずに自分で行動を

動物に関する問題は、人間社会の問題と深くつながっています。野良犬・猫を保護しても、人が知識を得て動物の目線に立ち、動物のことを考える社会にならないければ、別の野良犬・猫が生まれ同じことの繰り返しになってしまいます。多頭飼育崩壊で犬や猫を飼えなくなる人も、心に闇を抱えていたり、病気になっていたりして、人に頼れない場合があります。社会・地域全体の問題でもあります。そのため、解決には、個人や愛護団体だけでなく行政の力も必要で、簡単ではありません。

それでも私は、人の優しさや生き物を大事にする心を信じ、まずは自分の住む町が変わっていくのを見たいと思っています。そのために誰か

がしてくれるのを待つのではなく、自分で行動に移そうと、令和6年2月、もふもふの会を立ち上げ、3月に犬の散歩とごみ拾いをしながら桜を見る「SAKURAWALK」を開催しました。

「SAKURAWALK」のアイデアは、飼っている龍ちゃん（右から）の散歩をした時、道に落ちていたごみを食べてしまわないか心配で、ポケットの中がごみでいっぱいになった経験から生まれました。

多くのものを与えてくれた動物たちの役に立ちたい

動物たちと接することで、私は動物から愛や優しさ、心の広さ、人を信じることなど多くのことを教わり、自分の心を開くことができました。だからこそ、恩返しをしたい、役に立ちたいと思っています。

私も以前、犬が怖かった時期があるので、動物が苦手な人の気持ちもよく分かりますし、全ての人に動物を好きになってほしいというわけではありません。私は穏やかな犬との出会いを機に、自分の意識が変わり、心を開いて素直になったことで犬に受け入れてもらえたように思います。それぞれのタイミングが来た時に、動物に対して心を開くことができれば、それでいいですね。

全ての人に対して優しい社会を作るためには、動物が好きな人だけではなく、嫌いな人も含め広く意見を取り入れて、全ての人の視点から考えることが大切です。思ったことを行動に移し、動物の幸せのために活動することで、少しでも動物の役に立てればと思っています。

【撮影協力】

もふもふの会のワンちゃんたち（右から）ピスタちゃん、フランちゃん、龍ちゃん

